

教育委員会だより

市浦の5年生24人が上ノ国町に

友好町村交流事業として毎年行われている五所川原市市浦小学校との交流が9月15日、16日に行われました。

市浦小学校から24名の児童が上ノ国町を訪問し、到着後、文化財である旧笹浪家住宅、勝山館跡を見学しました。児童たちは教育委員会文化財グループ塚田学芸員の説明も熱心に聞きメモをとっていました。

ガイドンス施設では、アイヌの墓や侵入者に備えての空堀の説明を興味深く聞いていました。また、旧笹浪家住宅ではイロリやカマドを珍しそうに見ていました。

続いてのサケの地引き網体験ではあらかじめ化場の職員が用意してくれた網をみんなで引つ張りました。網には10匹以上のサケが入っており、みんなとても興奮して



サケとつたど〜!!

その後、上ノ国小学校で町内小学校5年生との交流会を行いました。

上ノ国町の5年生が市浦に訪問したのは6月の事です。お互いに久しぶりの顔合わせを喜びながらも照れもあり、最初は思うように話すことができない様子でした。それでも交流ゲームを行ううちに徐々に打ち解け、ほどなくゲームや記念品づくりに歓声を上げていました。夕食は上

ノ国小学校の5年生の保護者が作ってくれたカレーライスやイカ焼きなどに舌つづみをうっていました。なお、材料の一部は保護者から提供して頂きました。保護者の皆さんありがとうございます。

2日目は湯ノ岱温泉を出発して栽培漁業センターでアワビやナマコの生態について水産商工課木村主査に説明をして頂きました。ナマコ、アワビの稚貝は減多に見る機会がないので児童達は興味深く観察をしていました。市浦の児童はとても積極的に質問したり、メモをよくとります。その姿にとっても関心させられました。

2日間という短い日程でしたが大変お疲れ様でした。



話を真剣に聞く子どもたち

桧山管内教職員研修が上ノ国町で開催

9月1日(木)、上ノ国町

を研修場所に初任者研修「地域研修」が行われました。初任者研修は毎年、桧山の新任教職員を対象に行われるもので、今回は「北海道の歴史と文化」と題して上ノ国町教育委員会の渡部事務局長と塚田学芸員が講師として北海道の歴史、アイヌ文化についてそれぞれ講演しました。この講演は昨年もおこなっておりですが、好評だったため今年も桧山教育局に依頼されたものです。

北海道の地名の由来や、発掘された遺物に直に触れての講演に参加した皆さんは熱心



実際に遺物に触れての講演

に聞き入っていました。午後からは、旧笹浪家住宅で勾玉づくりを体験しました。初めての体験に参加した皆さんは苦労しながらも思い思いに勾玉づくりに取り組んでいました。今回の研修で学んだことを学校の学習でも活かして頂きたいと思います。



北海道の文化を学ぶ



勾玉づくりに挑戦!!